

## 個別最適で協働的な学びを目指し、ルーブリックを活用した実践

- 【題材名】 6年生 算数科「立体の体積」
- 【内容】 ①教師が、評価規準を説明する。  
②児童が、「学び方」「活動の目当て」を決定する。  
③児童が、それぞれの学び方で学習する。  
④児童が、学習活動の後、自己評価と振り返りを入力する。

【使用アプリ】 Google spreadsheet

## 【事例紹介】

算数科で、ルーブリックを活用して個別最適で協働的な学びを目指した実践を行った。

名前	学び方	活動のめあて	自己評価	振り返り
1	2～3人で	A	A	底面積を求めると、体積が求められた。
2	1人で	S	S	どんな形でも、底面積×高さでもとめる
3	2～3人で	A	B	体積を求めることができた。
4	2～3人で	A	A	体積の求め方を図を書いて説明すること
5	2～3人で	A	A	体積は、面積の求め方と似ていると思っ
6	先生と	B	B	底面積×高さで体積が分かった。

まず、ルーブリックのspreadsheetをclassroomで配布（共有）した。

次に、教師が評価規準を説明し、何ができると「S」「A」「B」のレベルなのかを教えた。

そして、児童に「学び方」を決めさせた。見通しを持つ学習段階で、自信のある児童は、「一人で課題を解決する」、を選択した。友達との話し合いで解決したい児童は、「2～3人で話し合いながら課題解決に臨む」、を選択した。自信の持てない児童は、「先生と学習する」を選択し、教師に分からないところを相談したり、ヒントを得たりしながら学習した。

最後に、全体で意見交流をした後、自己評価と振り返りを入力した。

## 【解説】

個別最適で協働的な学びを実現するためには、ルーブリックの活用が効果的である。spreadsheet をルーブリックに活用することで、自分に合った「学び方」を選択することが容易にでき、教師も全員の選択を素早く把握することができる。また、児童にとっても、みんながどのレベルに挑戦しようとしているのかを知ることができ、意欲の向上につながったと考える。

☆教育委員会主幹講評☆ 「個別最適な学び」の実現には、児童生徒が自ら選んだり決めたりする場面を設定し、自らの学習を組み立て進めていくことや目標とする学習がいかなるものかを知り、目標と自分とを比較し、その差を解消するために何をすべきかを考えるといった、自らの学習状況を調整する姿が大切であると言われていています。そういった点で、児童がルーブリックを見ながら、自らの目指す姿を明確にするとともに、自らの立ち位置を自覚し、より高い次元を目指そうと意欲的に学ぶことができた今回の実践は、「個別最適な学び」の実現につながったと言えます。また、今回の報告では「個別最適な学び」の成果を Google spreadsheet を活用することで「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、両者を一体的に充実させていくといったこれまでになかった報告をしていただきました。今後もルーブリックを活用した個別最適で協働的な学びの実現に向けての研究をお願いします。